

## 令和5年度 第4回 八戸市子ども・子育て会議 議事録

### 【概要】

日 時	令和6年2月14日（水）13時30分																					
場 所	八戸市公民館2階 会議室1・2・3																					
出席委員	<p><b>【出席】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">坂本 美洋 委員</td> <td style="width: 33%;">関川 幸子 委員</td> <td style="width: 33%;">根城 隆幸 委員</td> </tr> <tr> <td>三角 浩司 委員</td> <td>正部家 朱美 委員</td> <td>高橋 隆悦 委員</td> </tr> <tr> <td>田頭 初美 委員</td> <td>小川 和子 委員</td> <td>久保 隆明 委員</td> </tr> <tr> <td>高橋 さつき 委員</td> <td>小池 智彦 委員</td> <td>山本 恵鶴子 委員</td> </tr> <tr> <td>加藤 宏明 委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計13名</p> <p><b>【欠席】</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">中里 雅恵 委員</td> <td style="width: 33%;">川村 暁子 委員</td> <td style="width: 33%;">平間 恵美 委員</td> </tr> <tr> <td>風穴 雄亮 委員</td> <td>細越 亜起子 委員</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計5名</p>	坂本 美洋 委員	関川 幸子 委員	根城 隆幸 委員	三角 浩司 委員	正部家 朱美 委員	高橋 隆悦 委員	田頭 初美 委員	小川 和子 委員	久保 隆明 委員	高橋 さつき 委員	小池 智彦 委員	山本 恵鶴子 委員	加藤 宏明 委員			中里 雅恵 委員	川村 暁子 委員	平間 恵美 委員	風穴 雄亮 委員	細越 亜起子 委員	
坂本 美洋 委員	関川 幸子 委員	根城 隆幸 委員																				
三角 浩司 委員	正部家 朱美 委員	高橋 隆悦 委員																				
田頭 初美 委員	小川 和子 委員	久保 隆明 委員																				
高橋 さつき 委員	小池 智彦 委員	山本 恵鶴子 委員																				
加藤 宏明 委員																						
中里 雅恵 委員	川村 暁子 委員	平間 恵美 委員																				
風穴 雄亮 委員	細越 亜起子 委員																					
事務局	<p>こども健康部：秋山部長、岩崎こども・子育て政策推進監</p> <p>こども未来課：夏井課長、小田副参事（保育GL）、和島副参事（企画GL） 八木澤副参事（認可監査GL）、佐々木主幹、柳町主幹、 松浦主幹、新山主査、工藤主事</p> <p>子育て支援課：森林課長、山本副参事（家庭支援GL）</p> <p>こども家庭相談室：中里こども健康部次長兼室長、久保副室長（女性支援GL） 戸田主幹（こども家庭支援GL）</p> <p>すくすく親子健康課：坂本課長</p> <p>教育指導課：梅内課長、日向端副参事（実践支援GL）</p> <p>こども支援センター：田端所長、小林副所長（こども支援GL）</p>																					
その他出席者	株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所：伊東氏、田中氏																					
案件	<p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園の認可について</li> <li>・令和6年度に向けた教育・保育施設等の利用定員について</li> </ul> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について</li> <li>・こども誰でも通園制度（仮称）の本格実施を見据えた試行的事業について</li> <li>・令和6年度八戸市子ども・子育て会議開催日程について</li> </ul>																					
結果概要	上記議事および報告について説明し、出席委員全員の了承を得た。 (以下、議事詳細)																					

## 【議 事】

司 会 只今より令和 5 年度第 4 回八戸市子ども・子育て会議を開催いたします。  
本日は、中里委員、川村委員、平間委員、風穴委員、細越委員が所用のため欠席されておりますが、半数以上の出席であり、八戸市子ども・子育て会議条例第 7 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。  
それでは、会議に入ります。当会議条例第 7 条により、会議の議長は、会長が務めることとなっております。坂本会長に、御挨拶をいただき、引き続き議事の進行をお願いします。

会 長 (挨拶)  
それでは議事に入ります。皆様の御協力をいただきまして、円滑に議事を進めて参りたいと存じますので、よろしく願いいたします。

はじめに、議事の 1 つ目、幼保連携型認定こども園の認可について事務局より説明願います。

こども未来課 (説 明)

会 長 只今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

(質問・意見等なし)

それでは、本件について事務局案のとおり承認することによろしいでしょうか。

(委員からの承認)

それでは、本件について承認いたします。

続きまして、議事の 2 つ目、令和 6 年度に向けた教育・保育施設等の利用定員について事務局より説明願います。

こども未来課 (説 明)

会 長 只今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

(質問・意見等なし)

それでは、本件について事務局案のとおり承認することによろしいでしょうか。

(委員からの承認)

それでは、本件について承認いたします。

続きまして、報告案件となります。

はじめに、八戸市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について事務局より説明願います。

こども未来課 (説 明)

(株)サーベイリサーチセンター

会 長 只今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

委員 A 私の家にも届いて回答させていただいたので、私の意見がこの中に入っているのだと思いながら聞いておりました。前回の会議のときに、回収率が前回調査では 60%くらいで、それが妥当だというお話があったのですが、今回の回収率は 50%を下回っています。これ以上は出来ないと思うのですが、今回はこれを採用するというので大丈夫ですか。

こども未来課 はい。前回調査が大体 55%くらいでした。今回は全体で 47%くらいということで、ちょっと私も気になりまして前々回の調査や青森市や弘前市での調査を確認したところ、大体 50%弱くらいになっていることが分かりました。これくらいの回収率で十分判断できると思っておりましたので、これで量の見込みを算定していきたいと考えております。

委員 A ありがとうございます。問題意識を持たれている方が答えているのだらうと思われるので、課題だなとか、困っているなという方の意見は反映されるのだらうと思っております。ただ、設問がすごい量だったのと、子どもが 2 人いるので、どちらを想定して答えたらいいのか分からず、確か上の方と書かれてたと思って上の方で書いた記憶があるのですが、わざわざ問い合わせるのもなと思いながら自分の考えで設問にチェックを入れました。今回の調査は、多分ほとんど母親が答えているのではないかと思います。うちの旦那は多分見ていないです。一緒に意見をすり合わせて書くのは、量が膨大過ぎて出来ないと思って私がやってしまったのですが、多分そういうご家庭がとても多いのかと思われるので、今後はもう少し負担がかからないよう皆さんに答えやすい調査ができたらいというのが私の希望です。今後の計画にどう反映されていくのか楽しみにしています。

会 長 他の委員の皆様から何かございますか。

委員 B 資料 21 ページからの放課後の過ごし方というのが、このアンケートの一つの山かと思えます。社会状況が変わってきて、子どもに対しての不安材料が保護者としてあるのではないかと感じています。家庭でなければ出来るだけ学校に長くいて、保護者が仕事を終わって帰宅するまでの間、学校で預かるのがよいと思いますが、学校の先生方も忙しいとか、保護者が就労している状況が増えてきているということがございます。そういった中で、子どもをどうするのか、特に 1~3 年生の小さい子どもたちが、私たち大人が見守ることで、健全に育ててほしいという願いがあります。不審者の問題など社会状況が変わってきているので、新しい計画の中では放課後の過ごし方について、ぜひ焦点を当てていただきたいと思えます。どうすれば子どもたちが健全に育つのかということを考えていくキーになると思われます。出来れば学校内の場所を借りて読書したり宿題するのもいいですし、身体を動かしたければ校庭で遊ぶのもいいでしょう。それが一番子どもたちも幸せでしょうし、保護者も安心できるかと思えます。そのような状況を地域の人たちで見守るといのがい

いただろうと私は感じているのですが、現状はそうではないので、子ども子育てについて、最近はいわゆる「ウェルビーイング」がキーワードになっていますが、そのようなところを考えていきたいというのが、私の感想と希望でございます。

会 長  
委員 C

他の委員の皆様から何かございますか。

17 ページの病児病後児保育のところ、「利用したいと思わなかった」を選んだ方が、予想していたよりも多いということで、少し安心したなという思いがあります。小さいお子さんが病気になったときには、親にそばにいてほしいと願うものだと思うんですね。先ほどリサーチ会社の方がおっしゃったのが、「一定量の方が必要としている」とのことで、今回は量の見込みを図るための調査だからかと思えますけれども、一定量の方が希望しているからということで、もっと施設を増やすのがよいかというと、私は疑問に思います。子どもが病気のときは、親が遠慮なく仕事を休んで子どものそばにいてあげられる社会をつくっていく方が、子どもは家庭で安心して育つと思います。ただ量の見込みがあるというアンケート結果だけで考えるのではなく、大人が働くことを優先させずに、子どもが優先される社会であってほしいです。私の幼稚園でも、「今日は子どもの具合が悪いので休ませてください」と言われると、そのクラスは誰が見たらいいのかということになるのですけれども、それでもなんとかなるものですし、その病気になられたお子さんは、やっぱりご両親がそばにいるのが一番いいと思いますので、量の見込みというところだけで決めない方がいいかと思ひまして、意見を申し上げました。

会 長  
委員 D

他の委員の皆様から何かございますか。

息子が昨日までインフルエンザでしたので、元気だけど休ませなければいけない状況でした。インフルエンザだから外に連れて行くこともできない中、ほとんど私が一人で子どもを看ていたのですが、一人で見る限界をすごく感じました。コロナの時期は皆さん本当に大変だったろうと思います。父親が休む割合は少ないですし、父親が育児休業を取る期間がすごく短かったり、社会の問題がすごくあるなと思います。私は実家に手伝ってもらったりもしたのですけれども、そのような子どもを看る人が増えたらいいなと思います。

会 長

他の委員の皆様から何かございますか。

(質問・意見等なし)

それでは、報告案件の2つ目、こども誰でも通園制度(仮称)の本格実施を見据えた試行的事業について事務局より説明願います。

こども未来課

(説 明)

会 長  
委員 E

只今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

差し支えなければ、実施する施設を教えていただけますでしょうか。

- こども未来課 資料には6施設とありますが、1施設から辞退の申し出がありましたので、現時点で5施設となります。認定こども園が4施設で、
- ・こばとこども園
  - ・中居林こども園
  - ・小久保保育園
  - ・マリアンハウス幼稚園
- です。小規模保育施設が、
- ・中居林ふたば園
- です。
- 会 長 他の委員の皆様から何かございますか。
- 委員 F スケジュール案に「予算措置」とありますが、これは国の予算のことですか。それとも市の予算のことですか。
- こども未来課 国からの交付金が3/4、市の持ち出しが1/4となっており、令和6年度の当初予算として要求しております。
- 委員 F ありがとうございます。施設要件や職員の要件を市で設定する予定はありますか。
- こども未来課 国の方もまだ制度設計が進んでいるわけではなく、見切り発車になっているところがあるのですけれども、市では一時預かり事業の基準を参考に進めております。例えば、一般型の一時預かり事業のようなやり方をするのであれば、「保育士2人以上、ただし1人は兼任可能である」など。このような一時預かり事業と同じような基準で設計されると思われませんが、市では国で設計した通りにやる予定で考えております。
- 委員 F ありがとうございます。1人あたり月10時間まで一時預かりと同じような要件でのお預かりの中で、専任の職員が1人配置された場合の人件費について、園の負担になるのか、自治体が負担するのか、国から補助が出るのか、そのあたりはどのようになっていますか。
- こども未来課 人件費につきましては、預かった子ども1人1時間あたり850円という単価が国から示されているだけになっております。市では、国から示された単価に基づいて予算を考えておりましたので、施設への補助金額は850円×何時間×何人で計算することを考えております。
- 委員 F ありがとうございます。試行的事業ということで、事業者には大きなハードルがある中で、八戸市が当事業を受けたのは何か理由がございますか。
- こども未来課 国から自治体へ公募がありましたので、市内の全施設に意向調査をしました。その中で、手上げしていただいた施設がございましたので、応募しました。
- 委員 F ありがとうございます。意向調査の前に説明会があれば、もっと手上げをするところ、あるいは今回は手上げするべきではないという判断をしたところがあったような気がしておりますし、そういう声も若干あったりもしています。
- これがやがてこども家庭庁のいう「こどもまんなか社会」、子どもは権利の主

体というところにコミットしていくものならば、今回の試行的事業が八戸市で好事例を出していけるような形を作っていただければありがたいと思っています。また、そのためには、国ではなかなか難しい事業に対する補助や助成など、そのあたりも含めて考えていただけたらありがたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

会 長 彼の委員の皆様から何かございますか。

委員 G 「こども誰でも」ということではありますが、対象児童を6か月から満3歳未満に限っているのは、国がもともとこの年代をターゲットにしているからなのか、それとも、受入態勢が整っていないなど、何らかの事情があって本来就学前までのところを満3歳未満までにしたのか、確認させてください。

こども未来課 こちらは国で設定しております。国の意図としましては、3歳以上ですと1号認定で園に通うことができるので、それに満たない年齢で保育園等に入っていない子どもでも通園できるようにということで、このような年齢設定されたものと考えております。

会 長 彼の委員の皆様から何かございますか。

委員 H 一時預かりとの差別化や、予約が必要なのか、今日突然預けるといったことができるのか、細かい話ですけれど、目的が子どもの育ち、成育環境の整備、多様な働き方とあり、結局これは誰のためなのかというのが気になります。

こども未来課 目的については、この概要を見る限りは確かに誰のためなのだろうというところはあるのですけれども、国で設置している検討委員会では、親のためでもあり、子どものためでもある、と全方位的な目的とされておりました。

予約が必要なのか、当日利用できるのかという点については、これから実施する施設と検討していきたいと思っていますけれども、それぞれの施設に枠があり、無制限に受け入れるのが難しいので、おそらく予約という形になるかと想定しております。

一時預かりとの差別化については、私たちも悩ましいと思うところですが、多くの人に預かり的な体験をしてもらおうというのが一つと考えており、その点で差別化が図られていると考えております。

委員 H ありがとうございます。親御さんがどういう思いで預けるとか、親御さんが月10時間しか使えない中で、その施設との信頼関係とか、その辺りが課題になるかと思えます。良い形になればいいなとも思っております。

会 長 彼の委員の皆様から何かございますか。

(質問・意見等なし)

それでは、報告案件の3つ目、令和6年度八戸市子ども・子育て会議開催日程について事務局より説明願います。

こども未来課 (説 明)

会 長

只今の説明に対し、御質問・御意見等ございませんか。

(質問・意見等なし)

それでは、本日、予定していた案件は以上となります。

委員の皆様から、本日の案件以外のことで何かございますでしょうか。

(なし)

無いようですので、これをもちまして終了いたします。ご協力ありがとうございました。進行を司会に戻します。

司 会

ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、令和 5 年度 第 4 回 八戸市子ども・子育て会議を終了いたします。委員の皆様、ありがとうございました。